

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)の被害に注意!

近年、京都府では秋に栽培するダイコンやキャベツなどアブラナ科野菜でハイマダラノメイガが多発生しています。

9月2日に農業総合研究所内のハクサイを調査したところ、被害株率が4%でした。すでにダイコンのは種やキャベツ、ハクサイの定植を終えておられるところが多いと思いますので、今後の発生に十分注意し、被害の拡大を防ぎましょう。

【生態】

- 1 ハイマダラノメイガは8~9月の気温が高温に経過した年に発生が多くなり、今後1か月の気温は高いと予想されています(8月29日大阪管区気象台発表)ので、多発が懸念されます。
- 2 幼虫は頭部が黒く、体に褐色のすじ状の模様があるのが特徴です(図1)。また、幼虫の体長は1.4mm前後です。

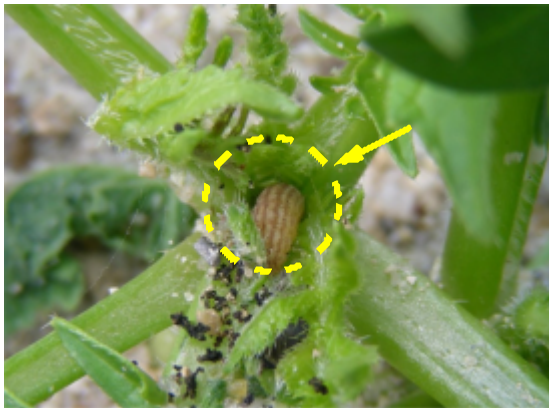


図1 幼虫が新芽を加害



図2 葉をつづって食害

【被害の状況】

- 1 幼虫は新芽に潜り込み、まだ開いていない生長点付近の新葉を糸でつづり合わせて内部から食害します(図1)。
- 2 幼虫は齢が進むと新芽以外にも葉をつづって食害します(図2)。

【防除のポイント】

- 1 育苗中は防虫ネットや寒冷しゃなどで被覆し、成虫の飛来・産卵を防ぐ。
- 2 早期発見に努めるため新芽を中心に観察し、幼虫を発見したら、ただちに防除する。